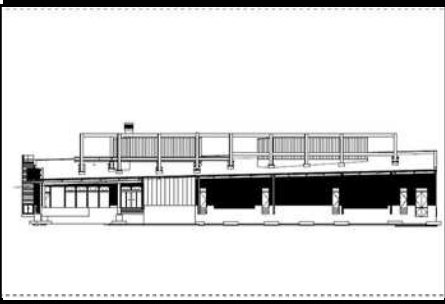


CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	山鹿市学校給食共同調理場	階数	地上1階、地下0階
建設地	熊本県山鹿市津留字大町1160-1、1171-1、1304-2、1306-2	構造	S造
用途地域等	都計外(準都計外)	平均居住人員	50人
省エネ:地域区分	6地域	年間使用時間	2,160時間/年
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	基本設計段階評価
竣工時期	2028年3月 予定	評価の実施日	2026年5月1日
敷地面積	5,299 m ²	作成者	株式会社セルアーキテクト
建築面積	2,722 m ²	確認日	
延床面積	2,557 m ²	確認者	



2 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)

排出率: 79%

■ ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	★★★★★
30%超60%以下	★★★★
60%超80%以下	★★★
80%超100%以下	★★
100%超	★

3 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

評価点: 80

■ 熊本県重点評価基準

重点事項	評価点	判定値(評価点)	ランク表示
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	83.5	100点以上	★★★★★
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	65.0	80点以上100点未満	★★★★
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	82.5	60点以上80点未満	★★★
【重点事項4】 循環型社会の実現	85.5	40点以上60点未満	★★
		40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	山鹿市学校給食共同調理場	階数	地上1階、地下0階
建設地	熊本県山鹿市津留字大町1160-1、1171-1、1304-2、1306-2	構造	S造
用途地域等	都計外(準都計外)	平均居住人員	50人
省エネ:地域区分	6地域	年間使用時間	2,160時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	基本設計段階評価
竣工時期	2028年3月 予定	評価の実施日	2026年5月1日
敷地面積	5,299 m ²	作成者	株式会社セルアーキテクト
建築面積	2,722 m ²	確認日	
延床面積	2,557 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★☆☆☆☆ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価 評価点 = 80

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 **83.5**

重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 **65.0**

重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 **82.5**

重点事項4: 循環型社会の実現 **85.5**

重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

スコアシート		基本設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		Q 建築物の環境品質						2.7	
Q1 室内環境			0.32	-	-	2.8			
1 音環境		2.2	0.15	-	-	2.2			
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40	-	-				
1.2 遮音		1.0	0.40	-	-				
1 開口部遮音性能		1.0	0.60	-	-				
2 界壁遮音性能		1.0	0.40	-	-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-				
1.3 吸音	壁と天井に使用	3.0	0.20	-	-				
2 温熱環境		2.4	0.35	-	-	2.4			
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-				
1 室温		3.0	0.38	-	-				
2 外皮性能		3.0	0.25	-	-				
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-				
2.2 湿度制御		3.0	0.20	-	-				
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-				
3 光・視環境		3.0	0.25	-	-	3.0			
3.1 昼光利用		4.2	0.30	-	-				
1 昼光率	事務所: 2.5% ≤ 3.6%	5.0	0.60	-	-				
2 方位別開口		-	-	-	-				
3 昼光利用設備		3.0	0.40	-	-				
3.2 グレア対策		2.0	0.30	-	-				
1 昼光制御		2.0	1.00	-	-				
3.3 照度		3.0	0.15	-	-				
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-				
4 空気質環境		3.7	0.25	-	-	3.7			
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-				
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆を使用	4.0	1.00	-	-				
4.2 換気		3.6	0.30	-	-				
1 換気量		3.0	0.33	-	-				
2 自然換気性能	別添計算書参照	5.0	0.33	-	-				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	-	-				
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-				
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-				
2 喫煙の制御		3.0	0.50	-	-				
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.3			
1 機能性		3.2	0.40	-	-	3.2			
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-				
1 広さ・収納性		3.0	0.33	-	-				
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	-	-				
3 バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-				
1.2 心理性・快適性		3.3	0.30	-	-				
1 広さ感・景観	事務所: 天井高2.7m	4.0	0.33	-	-				
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33	-	-				
3 内装計画		3.0	0.33	-	-				
1.3 維持管理		3.5	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計	①②③⑤⑥⑩⑪	4.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-				
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30	-	-	2.9			
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	B以上を使用しEは不使用	5.0	0.20	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-				
2.4 信頼性		2.6	0.20	-	-				
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-				
3 電気設備		3.0	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-				
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-				

3 対応性・更新性			3.7	0.30	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高の平均:5.6m	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	工場:0.1≦0.13<0.3、事務所:0.1≦0.16<0.3	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.6	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	天井ピット	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	天井ピット	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	中央式空調設備を持たない	4.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.38	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.59	5.0	0.05	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.12	-	3.0
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEIm] = 0.68	4.2	0.60	-	4.2
4 効率的運用			2.5	0.24	-	-	2.5
集合住宅以外の評価			2.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.4
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	
節水水栓・節水型機器							
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.60	-	-	3.6
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			4.0	0.20	-	-	
高炉セメントB種、再生クラッシュラン							
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.20	-	-	
LGS下地・ビニル床タイル・ころがし配線・OA707							
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	-	-	-	
3	冷媒		3.0	1.00	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮			3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	ガイドラインの一部を満たす、広告照明なし	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

建物名称 山鹿市学校給食共同調理場

■評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		80
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				83.5	0.40	33.40
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.09			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.09			
Q1-3.2.1	昼光制御	2.0	0.09			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	5.0	0.04			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.2	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				65	0.20	13.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				82.5	0.20	16.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				85.5	0.20	17.10
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	4.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

■ 環境関連の配慮事項

山鹿市学校給食共同調理場

印刷:モノクロ
設定済み

・適宜、箇条書き等で記入してください。

・キーボード操作:改行の際は【Alt】キー&【Enter】キーで次の行に進みます。

計画上の配慮事項		※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合	周囲の山々や田園風景との調和を目指し、1勾配の大屋根をかけるシンプルな形状とした。屋上設備スペースは遠景から視認しにくい場所に配置し、圧迫感を軽減させた。	
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・F☆☆☆☆建材を使用。 ・調理エリア内の空調効率を向上させるため均等な天井高さとし、吹き抜け等を設けない計画とした。 	
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・地下ピット内での点検、管理がしやすいよう、歩行に支障のない天井高さを確保し、大スパンの空間で配管などの更新も容易に行えるようにした。 	
Q3 室外環境 (敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・建築物の色彩は周辺景観に配慮した。 	
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・窓面には深い庇を設け、日射遮蔽に配慮した。 	
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・断熱材は全てノンフロンとした。 	
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> ・配送車や従業員の車両の通行が頻繁に行われるため、敷地内通路の幅員は広く確保し、事故のないよう一方通行の計画とした。 	
その他		